



大きな栗の木の下で



栗東いちじく生産組合では、いちじくを生産者自身がジャムやピューレに加工。
生食の規格から外れても、加工基準を満たすいちじくを活用し、硬い部分などを包丁で丁寧に取り除いていきます。愛情を込めて育てられたいちじくは、生まれ変わって全国の皆さんのもとへと届きます。

特集

まちが誇る特産品「栗東いちじく」

議案

9月定例会

委員会

各常任委員会ピックアップ

個人質問

ここが聴きたい 市政を問う

収穫

栗東の
いちじくは
朝採り



- 「滋賀県環境こだわり農産物」認証
- ビニールハウス栽培
- 朝4時頃から、高温の中での作業
- こまめな手入れが必要

<高温の中での大変な作業>

毎年7月の中旬くらいから収穫が始まります。1パック300g(3~4個入り)で、1シーズン4~5万パックほどを生産。

ビニールハウスの中は、朝4時頃でも高温で、収穫は大変な作業だと感じます。



出荷



- 栗東いちじく生産組合14名
- 毎年、滋賀県の果樹品評会で上位入賞
- 生産者ごとにファンがいる
- 今年の目標は52,000パック

<「推し」の生産者がいる>

8月1日の初出荷式に伺いました。主に滋賀県内の市場を経て、隣県や県内のスーパーなどに出荷されます。また道の駅には、生産者の名前付きで出荷されており、名前を見て「推し」の生産者の物を買いたい方もいるとの話でした。健康・美容にもよいと好評で、ほとんどがその日のうちに売り切れてしまう状態だそうです。

生産から加工・販売まで まちが誇る特産品

栗東いちじく

毎年上位入賞
滋賀県果樹品評会
いちじく部門

※品評会は個人での
出品です。

2022年

1位

2023年

2位
3位



健康、美容にもよいと言われるいちじく

栗東いちじくのおいしさの特徴は

- やわらかく、みずみずしい果肉
 - 上品な甘さ
- 採りたてのいちじくの販売は
- 道の駅こんぜの里りっとう・アグリ郷栗東、田舎の元気や等

市議会では、農業振興や産業振興をめざし、多くの質問をしましたが、「栗東いちじく」の取り組みは、市内で収穫されたいちじくが、6次産業化され、全国に発信されている理想的な形。平成3年、道の駅こんぜの里りっとうが誕生した際に、「栗東ならではの特産品を打ち出していこう！」となりました。その際、果樹を植えてから収穫までが短期間であることなどから、いちじくが選ばれたそうです。

今回は、「栗東いちじく」に関わる皆さんに話を伺い、その魅力をレポートします。



〈特集担当:伊吹、奥村〉

話を伺って

令和4年度策定の「栗東市農業振興基本計画」では、いちじくの他にも「うますぎる栗東農産物」促進プロジェクトにより、消費者に選ばれる魅力ある農作物づくりに取り組むこととされています。

今回、さまざまな皆さんから話を伺い、改めてそのご苦労とともに、大切に育てた農産物への愛情を感じました。

市議会では今後も、栗東いちじくを応援し、農産業活性化のために、市とともに取り組んでいきます。

PR活動

- 組合長自らが趣向をこらして積極的に発信
- 毎年、さきらで「りっとう無花果コンサート」を開催
生産者、パティシエ、大学生がコラボするクラシックコンサート



郷土愛をはぐくむ活動

- 地域の子どもたちが、いちじくハウスを見学

全国へ



- 栗東市のふるさと納税返礼品として人気
- 東京での滋賀県の情報発信拠点「ここ滋賀」でも発信中

<高評価のいちじくを

抜群の鮮度で食べることができる栗東市民>

栗東市で生産されるいちじくは品評会などでもさまざまな賞を受賞し、全国的にも高い評価を受けています。

ふるさと納税の返礼品としても喜ばれており、東京の日本橋にあるアンテナショップ「ここ滋賀」でも積極的な発信がされています。

しかし、新鮮ないちじくは地元でしか手に入らない栗東市民だけの特権です。

加工



- ジャムやピューレへ、無駄のない食材活用
- 生産者自身が加工
- 地域で支える農業

<おいしさを追求したレシピ>

金勝にある加工場で、ジャムやピューレなどに生産者自身で加工を行っています。

ジャムは道の駅などで販売されています。

ピューレは道の駅へ運ばれ、ソフトクリームなどに加工されます。

おいしさを追求した独自のレシピで、思いを込めて、丁寧に作業されている皆さんが印象的でした。

販売



- 道の駅こんぜの里りっとうで大人気のいちじくソフトクリーム
- 加工品は手原駅の観光案内所や道の駅などで販売

<交流人口増加の鍵>

道の駅こんぜの里りっとうではいちじくソフトクリームを4月～11月まで販売しており、人気の状況です。

他府県からもソフトクリームを求めて来られる方も多く、現在は、1日平均60食までの提供ですので、提供できる量を増やしたいとの話でした。

いちじくソフトクリームが今後の本市の交流人口増加につながる一つの鍵になるのではと感じました。

審議した議案・請願書・意見書など

	件名	採決結果
人事	人権擁護委員の推薦につき議会の意見を求めることについて (氏名:金城 ゆみ子 氏)	適任・全
	教育委員会委員の任命につき議会の同意を求めることについて (氏名:多田 玲子 氏)	同意・全
条例(一部改正)	行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用に関する条例 (マイナンバーを条例で定める事務で利用し情報連携できるように改正)	可決・全
	地区計画の区域内における建築物の制限に関する条例 (小野南部・上砥山工業団地地区)	可決・全
	水道事業給水条例 (水道料金改定に伴う改正)	可決・別表
	福祉医療費助成条例 (子ども医療費助成対象を「小学6年生から中学3年生までの子ども」へ拡大)	可決・全

	件名	採決結果
その他	和解を成立させることにつき議会の議決を求めることについて (時間外勤務手当請求事件について和解を成立させるため)	可決・全
	道路線の廃止について (坊袋杉ノ木1号線、下戸山区内1号線、小平井蒲原線、上鉤中食田線)	可決・全
	道路線の変更について (坊袋安養寺線、上鉤坊袋葉山川線、小平井区内10号線、小平井区内11号線、六地藏枝ヶ谷線、坊袋杉ノ木南線)	可決・全
意見書	道路線の認定について (林磐塚南線)	可決・全
	県立小児保健医療センターのベッド削減の中止を求める意見書	否決・別表
	硬膜外自家血注入療法に対する適正な診療上の評価を求める意見書	可決・全

令和4年度 一般会計・特別会計 決算					
会計名	決算額	採決結果	会計名	決算額	採決結果
一般会計	275億352万7,011円	認定・別表	栗東墓地公園特別会計	637万2,893円	認定・全
土地取得特別会計	1億2,289万9,263円	認定・全	大津湖南都市計画事業栗東新都心土地区画整理事業特別会計	6,325万1,033円	認定・全
国民健康保険特別会計	52億6,690万8,595円	認定・別表	水道事業会計	23億2,460万4,852円	可決 認定・全
後期高齢者医療特別会計	7億2,402万6,748円	認定・別表	公共下水道事業会計	31億3,933万583円	可決 認定・全
介護保険特別会計	39億1,876万2,324円	認定・別表	農業集落排水事業特別会計	3,601万7,355円	認定・全

※採決結果に「別表」とある議案の採決結果については、賛否の公表をご覧ください。「全」とある議案は全員一致でしたので、表への記載は省略しています。

令和5年度 一般会計・特別会計 補正予算				
会計名	補正額	予算総額	主な内容	採決結果
一般会計(第4号)	2億4,019万4千円(増額)	272億4,372万7千円	教育費の増額等	可決・全
国民健康保険特別会計(第1号)	4,204万3千円(増額)	55億3,752万6千円	諸支出金等の増額	可決・全
後期高齢者医療特別会計(第1号)	69万7千円(増額)	7億5,883万9千円	諸支出金の増額	可決・全
介護保険特別会計(第1号)	34万6千円(増額)	43億1,422万6千円	諸支出金の増額	可決・全
一般会計(第5号)	430万1千円(増額)	272億4,802万8千円	民生費の増額	可決・全

賛否の公表

賛成・反対の双方があった議案について表示します。(多=賛成多数、少=賛成少数 ○…賛成、●…反対)

案件	会派名 議員名	賛成 の数	新政会							ネットワーク			公明		共産		究理		未来
			三木 敏嗣	中野 光一	里内 英幸	梶原 美保	西田 聡	寺田 靖広	奥村 明	田村 隆光	上石 田昌子	谷口 律香	川嶋 恵	塩見 隆	青木 千尋	伊吹 裕	武村 賞	櫻井 浩司	島田 利恵
令和4年度 特別会計 決算 一般会計	一般会計	多	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	○	○	○
	国民健康保険特別会計	多	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	後期高齢者医療特別会計	多	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	介護保険特別会計	多	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
条例	水道事業給水条例	多	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○
意見書	県立小児保健医療センターのベッド削減の中止を求める意見書	少	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

*議長(上田忠博議員)は採決に加わらない

*会派名の正式名称は次の通り ネットワーク(栗東市民ネットワ-ク)、公明(公明栗東)、共産(日本共産党栗東市議団)、究理(究理の会)、未来(未来創造りっとう)

9月議会では、意見書1件を可決し、政府関係機関に提出しました。

硬膜外自家血注入療法に対する適正な診療上の評価を求める意見書

<意見書概要>

全身への外傷等により発症する脳脊髄液漏出症(減少症)の患者は日常生活を阻害する様々な症状に苦しんでいる。2016年より硬膜外自家血注入療法(ブラッドパッチ療法)が保険適応となったが、その後に脳脊髄液の漏出は頸椎や胸椎部でも頻繁に起こると報告された。治療をより安全で確実にを行うにはX線透視下で漏出部位を確認しながら行う必要があるが、現状の診療上の評価はX線透視が要件となっていないため、診療報酬における要件として適切な評価に改定することを求める。

さらに、脳脊髄液漏出症の患者の中には保険適用の「起立性頭痛を有する患者に係るもの」という要件を満たさない方もいるが、本疾患の症状において約10%は起立性頭痛を認めないという研究報告があることから、算定の要件の注釈として「本疾患では起立性頭痛を認めない場合がある」と加えることを求める。

傍聴にお越しく下さい

本会議・委員会審査は、どなたでも自由に傍聴いただけます。

- 開会時間は、いずれも9時30分を予定しています。
- 日程については、現段階での予定であるため、変更になる場合がありますのでご了承ください。
- 議場には車椅子を利用されている方の傍聴者席を設置しています。
- 手話通訳者の配置をご希望の方は事前に議会事務局へ連絡をお願いします。
- 問い合わせ 議会事務局(市役所4階)
TEL:551-0137 FAX:551-0146 ☎:gikai@city.ritto.lg.jp

12月定例会の予定 (土・日・祝は除く)

5日	本会議(議案上程等)
12日~14日	本会議(個人質問)
15日~19日	各常任委員会
22日	本会議(委員長報告・採決)

これまでの議会の様子は、YouTubeの動画でご覧いただけます。
栗東市のホームページにリンクがありますので、ご参照ください。

二次元コードで録画映像が見られます▶



常任委員会ピックアップ

～9月定例会での審査内容の一部概要をお伝えします～

予算常任委員会

令和5年度一般会計補正予算（第4号） 他4議案を審査

◆令和5年度一般会計補正予算
に対して審議しました。

・会計年度任用職員の雇用と
正規職員の確保に関して

問 人員不足への対応で会計年度任用職員を雇用することは網渡り的な感じを受ける。スキルや事業の安定のため、必要な人材を確実に確保すべき。市として正規職員を確保する考えはないのか。

答 第2次栗東市定員管理計画で適正な人員を検討し、合理的・効果的な配置ができるように進め、人員確保に努めたい。また、正規職員の体調不良による長期休暇などについては会計年度任用職員を雇用しなければならぬが、そつしたことも含め今後対応していきたい。

・体育館の空調設備を導入

問 市民体育館の空調設備の補正をこの時期に行う理由と、設置に伴う利用料の負担はどのように考えているのか。

答 空調の導入については仮設での対応を進めていたが、近年の酷暑と施設が避難所としての機能があることから、今年度に入り総合的に再検討を行ってきた結果、有利な起債メニューの活用により市費の負担額の削減も見込めたため常設整備として補正をあげた。また、空調の使用については電気代等利用者にご負担をいただくことになるかと考えている。



総務常任委員会

個人番号の利用についての条例の 改正等を審査

◆行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用に関する条例の一部改正について審査しました。

問 マイナンバーカードの普及に伴い、今後、対象事務が増える可能性は。

答 さまざまなサービスを提供していく中で、新たな独自利用事務として、増えていく可能性はあると考えている。

問 福祉医療費助成の対象者が拡大するが、対象者への利用も考えられるのか。

答 情報連携を利用し保険情報を入力する方法が可能になるため、情報連携開始の6月以降、活用方向の見込み。



◆時間外勤務手当請求事件について、和解を成立させることとの議案について審議しました。

問 市職員の時間外勤務手当請求の訴訟後、管理職の時間外勤務の状況についての認識等の議論は。

答 訴訟後、所属長に対し、各所属員の勤務状況の確認を徹底した。

問 勤怠管理システムの修正はいつまでなら修正可能か。出勤管理システムと時間外承認システムは連動していないのか。

答 所属長の承認前であれば自分で修正できる。出勤と時間外は個々の入力になるため、全ての画面確認ができる所属長に手順書の周知をした。



※委員長報告を映像でご覧いただくことができます

「**常任委員会**」とは

市政は範囲が広く内容も複雑なため、市議会では、委員会を設けて本会議の予備的な審査や重要な事柄の調査をしています。現在、4つの委員会に分かれ、議案などを審査しています。

各常任委員会 委員の紹介 (◎委員長 ○副委員長)

- 予算** 議長(上田 忠博)を除く全員 ◎上石田 昌子、○川嶋 恵
- 総務** ◎川嶋 恵、○上石田 昌子、中野 光一、寺田 靖広、島田 利恵
- 環境建設** ◎武村 賞、○梶原 美保、田村 隆光、三木 敏嗣、里内 英幸、伊吹 裕
- 文教福祉** ◎西田 聡、○青木 千尋、櫻井 浩司、塩見 隆、奥村 明、谷口 律香

環境建設常任委員会

水道料金の値上げに伴う条例改正等を審査

◆水道料金の値上げに伴う条例の一部改正について審査しました。

問 水道料金の料金改定において、25.5パーセントの値上げを提案されたが、上下水道審議会において激変緩和を提言され、値上げ率を15パーセントに抑えている。経営戦略では5年後に、10.5パーセントの値上げを検討されている。5年後に値上げしないことも検討されるのか。

答 経営戦略として、25.5パーセントの値上げが必要と考えた。今後、状況が変われば、値上げ幅等を含めて検討する。

問 水道管路の更新について、防災面から国、県の補助はあるのか。

答 耐震化の補助はあるが、市の料金が補助基準に達していないため補助を受けることが出来ない。国に対して補助基

準の見直しを要望している。**問** 市は、水道水を買っている。売る努力をもっとすべきである。

答 経営戦略の見直しにおいて、水道水を買う戦略を記載する。以前は、イベント等で栗東の安全な美味しい水のPRを行っていた。コロナ禍が落ち着いたので、イベント等でPRを再開する。

問 財源として、一般会計からの繰り入れを検討すべきである。

答 独立採算が原則である。赤字補填などを目的とした一般会計からの繰り入れは認められていない。



文教福祉常任委員会

子どもの福祉医療費助成制度の拡充について審査

◆子どもの医療費助成制度については、保健の向上と福祉の増進、並びに子育て家庭の負担軽減の観点から本市では現在、小学校6年生までは児童を対象に医療費自己負担額の助成を実施してきた。県内各市町が医療費助成の対象を拡大する中で、本市も中学生への対象拡大に向けた取り組みが急務となっていました。そこで今回、安心して子どもを生み育てられる環境のさらなる構築のため、本市において未実施である中学生の医療費助成制度の制定について審査しました。

問 滋賀県が全額県負担による高校生の医療費助成を行うとのことだが、高校生は自己負担なしになるのか。また、現在、栗東市では自己負担500円を徴収しているが、自己負担はどのようになるのか。

答 県の高校生への助成制度の拡充(案)によると、自己負担は通院が500円、入院が1000円を徴収する方向で今現在検討されている。市では現在の小学生とこれから拡大する中学生の入院の部分については、自己負担が発生しない。そのことにより、高校生と小中学生との間で違いが生じることになる。

滋賀県内のみ有効	
福祉医療費受給券 (子ども医療)	
福祉番号	40259525 受給者番号 *****
居住地	栗東市*****
受給者	氏名 栗東 花子 見本
	生年月日 *****
有効期間	令和6年 4月 1日 から 令和8年 3月 31日 まで
発行機関の長及び印	栗東市長 (印)
交付年月日	令和6年 4月 1日
入院	無
通院	有: 1診療報酬明細書当たり500円 (ただし、調剤報酬明細書には適用しない)

▲福祉医療費受給券イメージ

※委員会に先立ち、滋賀県知事に対して子どもの福祉医療費助成制度の拡大に関する緊急要望書を提出しました。(詳しくはp.14をご覧ください)

決算特別委員会

令和4年度の市財政の使われ方は？

◆令和4年度の予算が何に、どのように使われたのかを、詳細に慎重に審議しました。

問 FacebookなどのSNSメディアは媒体ごとに特徴があるが、新たな活用は考えているのか。

答 今年度、LINEの公式アカウントを取得予定である。

問 こんぜの里周辺施設は、市の大きな財産であるが、民間譲渡との関連はどのように考えているか。

答 今後、施設改修は誰がするのか、リスク分担が課題になってくる。事業スキームの検討と合わせ、民間譲渡も含めた可能性を模索したい。



▲道の駅こんぜの里りっとう

問 JR 栗東駅付近の点字ブロック設置に49万円余りの執行があるが、現在何%程度完成しているのか。

答 平成29年度から実施しており、現在79.7%の進捗である。

問 栗東駅2階からウイングプラザに向かう通路のタイルの剥がれは修繕計画があるのか。

答 ペDESTリアンデッキは今年度1月末を工期とした修繕設計を発注している。

問 保育業務支援システムの導入で、職員の負担は軽減できているのか。

答 毎日の手書き連絡帳などの時間短縮が図れ、教材準備や子どもたちに関わる時間に充てられている。

問 総合相談事業において、目標値より多くの相談が寄せられており、業務の増加が課題とされているが、その対応は

答 地域包括支援センターと連携し対応している。人員につ

いて、令和5年度は3包括で6名ずつ配置している。

問 公共下水道事業経営指標について、不明水の状況は。

答 令和4年度は10.9%で令和3年度から約5%減少している。降雨量の減少が原因と考えられる。

問 農業集落排水の法適化推進支援等委託業務について、観音寺地区は含まれているのか。今後の状況は。

答 観音寺地区も含まれており、県の汚水処理構想の見直しに伴う委託業務で経済比較を行い、方向性を検討していく。



▲ペDESTリアンデッキ(栗東駅前)

環境センター整備特別委員会

環境施設の整備、更新について審査

◆8月22日に委員会を開催しました。ごみ処理施設建設候補地の決定に向けたこれまでの取り組み、および環境センター周辺4自治会(六地藏、伊勢落、林、六地藏団地)への報告の概要や各自治会から出された意見について説明を受けました。

問 周辺4自治会の説明会などにおいて、契約書、確約書に対し、意見を求められることはなかったのか。

答 契約書、確約書については、重いものである。役員からは「誠意をもって丁寧に説明して欲しい。また、初代の環境センター建設当時の課題を知っておられる方々には、特に丁寧に説明して欲しい」との意見をいただいている。

個人質問

ここが聴きたい 市政を問う

9月8～12日に、13人が質問しました。
質問と答弁の要旨をお知らせいたします。
なお、紙面の都合上、主な質問のみ掲載しています。すべての質問については、YouTubeにて本会議の様子を視聴できますので、ぜひご覧ください。

議席番号	質問者	質問事項
12	上石田昌子	持続可能な地域活動をサポートするために 《自治会活動の課題とこれから》
11	谷口 律香	子どもの遊び場と安全なスポーツ環境について
7	西田 聡	学校の暑さ対策について
		スクールロイヤーの配置について
6	寺田 靖広	ゴミを減量することで予算削減は可能か
14	櫻井 浩司	栗東健康運動公園について
9	里内 英幸	100歳大学の活性化に向けて
4	川嶋 恵	地域で取り組む幸齢社会
		子育て支援の更なる充実を
10	島田 利恵	SDGsについて
3	塩見 隆	第4期栗東市地域福祉計画について
1	青木 千尋	自衛官募集事務について
2	伊吹 裕	認知症があっても安心して暮らせるまちづくりのために
		子どもの医療費の無償化の拡充について
13	田村 隆光	障害者差別解消法等の遵守で生きやすい共生社会の実現を!
8	梶原 美保	水道施設の安全性と事業の将来展望

問 …議員の質問
答 …市からの回答
意 …議員の意見

個人質問の
全体映像は
こちらから▶



自治会活動の課題とこれから

上石田 昌子 議員

問 自治会があたかも市の下請けのような役割を担っている上、担い手不足や高齢化といった社会的課題も顕著となり、自治会自体のキャパシティが限界を迎えつつある。アフターコロナ時代の到来を契機に、市は公共サービスの実質的な担い手である自治会をサポートすべき。負担軽減の観点から、行政からの依頼文書の妥当性と削減についての考えを問う。

答 可能な限り簡素化に努め、「自治会課題対応プロジェクト」において今年度検討を進める。

問 行政は自治会に丸投げせず、災害時の安否確認や要援護者の支援等に関してデジタル化を推進し、施策をおろしていくべき。国の地方交付税措置や臨時交付金等を活用し、市民の安全と自治会の負担軽減に努められたいが、考えを問う。

答 先進事例の調査研究を進める。

問 学区外に通学する児童や、鉄道・河川を超えての自治会編成等の対策として、住居表示を段階的に進めることも本市の大きな課題。当局の考えを問う。

答 地域住民の合意の下、計画的に進める必要があると考える。





子どもが安全に自由に遊べる場所を増やしたい!

谷口 律香 議員

子どもの遊び場について

問 市内公園には「ボール遊び禁止」等の啓発看板がある公園もあり、「どこでボール遊びをしたらよいか分からない」という市民の声がある。小学校高学年以上でもボール遊びができる公園についてまとめた公園マップを作成できないか。

答 案内できる内容を検討する。

問 放課後や休日の学校グラウンドの個人利用の可否について市民の間で認識にずれがある。子どもの遊び場として個人利用を認めている自治体もあるが、東市でも個人利用は可能か。

答 原則、認めていない。10人以上の登録団体のみ認めている。

問 子どもの遊び場について市長の見解を伺う。

答 学校グラウンドの個人利用についてはルールで杓子定規に決める必要がないと思っている。大人が寛大になることも必要。子どもの遊び場やスポーツの場の使いやすさについて今後もしっかりと考えていく。

問 学校体育館の冷房設備について

答 災害時の避難場所ともなる体育館のエアコン設置は検討しているか。

問 熱中症対策としてスポーツ開放時に学校設置の冷風機は使用可能か。

答 今年に限り、学校に申し出があった団体については使用を認めている。

問 熱中症対策としてスポーツ開放時に学校設置の冷風機は使用可能か。

答 今年に限り、学校に申し出があった団体については使用を認めている。



西田 聡 議員

学校の暑さ対策



問 熱中症予防に関する基準やガイドラインに沿った学校における暑さ対策について伺う。

答 熱中症指数計を活用し、暑さ指数に応じた運動を中止するなど事故防止に最大限の注意を払っている。適時適切な水分補給を家庭とも協力しながら取り組んでいる。

問 登下校を含めた暑さ対策は。

答 帽子や日傘の活用を勧めている。下校前に運動を行っていた場合は、十分クールダウンし、体調を整えたうえで下校するよう配慮している。



▲熱中症対策・屋内用スポットクーラー

早期のスクロイヤー配置

問 スクロイヤー配置のメリットは。

答 問題が深刻化する前に法的観点から事業の問題点を発見し、初期対応の段階で助言がいただける。

問 他市町の活用状況は。

答 早期対応として事業の相談をすることで9割以上の事業が解決、好転しているという。

問 スクロイヤーの早期配置を期待するが如何か。

答 チーム学校の一員として、できるだけ早い時期に配置できるよう検討を進める。

寺田 靖広 議員

ゴミを減量することで予算削減は可能か



問 常設の資源ごみ回収場所を設定することを検討できるか。

答 新たな回収拠点の設置は場所の確保や管理の負担面から困難と思われる。

問 少ない負担で資源ごみの回収量を増やせる方法はあるか。

答 古紙類・金属・びん・ペットボトルといった資源ごみについて、平日の開場時間中であれば、事前申請を行わずとも環境センターへの搬入ができるような対応を検討したい。

問 生ごみのリサイクルで、可燃ごみ減量が可能か。

答 管理をされる自治会の負担や衛生面、堆肥の引き取り先の確保等、課題も多い。

問 生ごみ処理機購入補助の申請件数は。

答 令和4年度が19件、令和3年度が23件、令和2年度が22件。

問 「可燃ごみ」を燃やさない「ごみ」として自治体があるが、ごみ袋のデザインを工夫することは出来るか。

答 ごみ袋のデザインについては、ガイドブック等との整合も含め、タイミングを見計らって検討したい。

意 可燃ごみの減量は環境と市の予算に優しいので、4Rの推進をお願いしたい。



▲亀岡市の「燃やさないごみ袋」「埋め立てるしかないごみ袋」



栗東市健康運動公園

櫻井 浩司 議員

問 公園を3つのゾーンに分けるとのことだがそれぞれのゾーンのビジョンは。

答 現在行っているサウンディング調査を踏まえ検討していく。

問 周辺の自治会での説明会の中で、いくつかばかりでなく、考えられるデメリット、馬のゾーンからの糞尿の匂い、騒音・馬場に使用される砂やウッドチップの粉塵等説明はしているのか。

答 説明会においても意見をいただいております。事業者へのヒアリングで課題整理をし対策を検討していく。

問 引退競走馬を引き取って繋養するとのことだが、人と触れ合ったり、乗馬ができるようになるまでは、どのくらいにの期間を考えているのか。また馬の特性を理解しているのか。

答 競走馬と触れ合えるまでには、半年から1年のリトレーニングが必要と聞いている。馬の特性については危険な部分もあると理解しているので事業者と協議を重ね事故のないよう安全対策を十分検討していく。



100歳大学の活性化に向けて

里内 英幸 議員

問 開校以来の入校生の推移と、運営改善を図るためのアドバイザー会議での協議内容を問う。

答 1期より43名、24名、14名、24名、20名、12名、今年度が29名と推移している。アドバイザー会議では、次年度のカリキュラム案や、新入生募集要項を協議している。

問 持続可能な事業として必要な要因を問う。

答 大学の意義や目的の再確認と、卒業後の地域貢献活動等ができる環境作りが必要。

問 大学運営の受託者に対する「プログラム」「実施内容」の質の管理にどのような指示・指導がされているかを問う。

答 アドバイザー会議の意見を参考に、大学の目的と講座のポイントを、講座の目的に合致するよう指導を行っている。

問 大学の充実に向けた具体策は。

答 新たな活動が立ち上がるきっかけとして、卒業生の交流の場づくりを進め、必要な地域課題等を情報提供する。健康や生きがいづくりの実践としての「自助」と、地域貢献の実践としての「共助」につながるよう創意工夫を進める。



▲100歳大学、グループワークの様子



地域で取り組む幸齢社会

川嶋 恵 議員

問 「認知症基本法」では、理解を深めることが基本理念の一つにあるが、認知症に対して、子どもや若者も含め理解を深める啓発は。

答 小学生や市民団体、民間企業向けに認知症サポーター養成講座を以前より開催している。現在は団体単位を対象としているが、今後は機会の拡大を図るため個人でも受講できるように検討する。

問 早期発見、早期診断を推進し、認知症の重度化の抑制や、治療へ繋がる、もの忘れ検診の見解は。

答 受け入れられる医療機関の状況や費用負担の課題もあり、当面は相談支援業務のなかで、早期発見や診断が受けられる支援の充実を引き続き取り組む。

子育て支援のさらなる充実を

問 乳幼児健診のネット予約システムの導入の考えは。

答 今年度、母子健康手帳アプリの導入を進めており、利便性の向上に向けて、システムの構築を進める。

問 ブックスタートの考えは。

答 家庭での読み聞かせの定着に向けた助となる

よう、10か月乳幼児健診時に絵本ガイドを配布している。ブックスタートについては本市では取り組んでいない。



▲認知症サポーター養成講座の教材と栗東市認知症ケアパス



SDGsを認知から推進、行動へ

島田 利恵 議員



▲市役所階段下にあるSDGs啓発サムネイル

問 本市のSDGsの認知活動で生じた効果は。

答 市民の皆さまについては、認知度を測り始めた段階で、職員等には一定進んだ。効果の分析検証はこれからであり、総合計画に掲げる政策目標への評価の際にはSDGsの視点に立った成果分析もしていきたいと考えている。

問 SDGsを推進する予定は。

答 本市では総合計画の推進がSDGsの目標達成への貢献に繋がるものとして取り組んでいく。今後、目標と指標設定を経て、アクションプログラムに移行し、推進を図っていく。

問 SDGs未来都市への応募予定はあるのか。

答 総合戦略がSDGs未来都市の認定を受けることでより効果が見込まれる場合は応募をしたい。

問 SDGsに繋がる栗東市の将来都市像「いつまでも住み続けたくなる安心な元気都市栗東」に対する市長の見解は。

答 住み続けたくなるには誇りと愛着がキーワード。SDGsがどのように絡むか考えていきたい。

特集

定例会

委員会

個人質問

議会トピックス

活動レポート



地域福祉計画の内容について聞く

塩見 隆 議員

問 地域福祉計画をより実効性のあるものとして推進していくためにも管理指標の設定と達成状況の把握、公表等についての考え方は。

答 代表的な指標の設定による評価の提案については、進捗管理を行う上で、一定の成果はあると考える。さまざまな情報媒体を活用し、本計画の趣旨などを市民の方々に広く周知していきたいと考えている。

問 若い世代の社会貢献活動への参加拡大の取り組みは。

答 情報発信にSNSなど新たな手段も取り入れるなど有効な情報発信方法を十分に検討するとともに、本市出身の著名人をはじめとする地域人材への協力依頼については関係課とともに検討していく。

問 ベテランの企業人・社会人・職業人として培ってきた男性シニア世代のスキルや経験を、子育て支援を核とした新たな「地域づくり」に活かすための取り組みは。

答 児童館における「おでかけシルバーママ・パパ事業」などを実施し地域社会との関わりを糸口づくりを行なっている。

意 一人でも多くのシニア世代の方が活躍できる場を提供して頂くよう、働きかけをお願いします。



自衛隊員募集事務での若者の氏名等の「閲覧」は中止を

青木 千尋 議員

問 自衛隊への「提供」の実態を問う。

答 毎年、自衛隊滋賀地方協力本部より「閲覧請求」があり、住民基本台帳法に基づき「閲覧」で対応している。

問 提供の内容を問う。4年前は自治会名も提供していた。改善されたのか。

答 住所、氏名、生年月日、性別の4情報となっている。

問 令和5年度の閲覧許可日、閲覧日時、閲覧人数は。

答 4月6日に請求。4月14日に閲覧。閲覧人数は789人。

問 自衛隊への提供を希望しない市民への対応はどうか。

答 市民から申し出があれば閲覧台帳からの削除は可能。

問 市民は自衛隊に若者の名簿が提供されていることを何で知ることができるのか。

答 栗東市のホームページの「住民基本台帳の一部の写しの閲覧状況(1年後)」でみることができると。



▲自衛隊イベント等の案内(栗東市役所)



認知症があっても安心して暮らせるまちづくりのために

伊吹 裕 議員

問 本市における認知症罹患者の実数と推移予測は。

答 実数を把握することは困難だが、専門医療が必要な重度の人は1334人であり、65歳以上の10%。2030年には20〜23%ほど大幅に増加することが見込まれている。

問 相談窓口の増設は。

答 市内に3か所にある地域包括支援センターがその役割を担っている。また、窓口に行かなくても自宅に訪問して相談に応じるなど柔軟な対応をしている。

問 認知症患者の個人賠償制度の導入についての考えは。

答 近隣市の状況も見ながら検討していきたい。

子どもの医療費無償化の拡充を

問 滋賀県は子どもの医療費助成の高校世代分の助成を24年度にも実施する計画をしている。現在県内で彦根市と本市のみが小学生までの助成で空白となることは避けるべき、考えは。

答 安心して子どもを産み育てられる環境づくりのため、令和6年より中学生の助成拡大を実施することについて、今回決断した。



障害者差別解消法等の遵守で生きやすい共生社会の実現を

田村 隆光 議員

問 障害者差別解消法では、障害のある人に対して行政をはじめ会社や店、ボランティア団体などの事業者は「合理的配慮の提供※1」が努力義務として求められてきたが、令和6年6月1日より義務化になる。事業者がこのための環境を整備する際、一定の経費等の負担が生じるが、支援策はあるのか。

答 県条例に基づいて実施されている助成制度がある。市のホームページで周知広報している。

問 平成31年4月に身体障害者福祉法施行規則が改正され障害者手帳の記載事項等が見直されたことに伴い、利用者が希望する場合は身体障害者手帳をカード形式でも交付できるようになった。市の対応は。

答 本市では他府県の手帳も含め、カード化された障害者手帳を取り扱った事例はない。カード化については、耐久制と携帯性が向上することで所持者にメリットがある反面、記載される文字が小さく見づらくなるというデメリットがある。県は導入については慎重に検討中である。



※1=内閣府HP



水道施設の安全性と事業の将来展望

梶原 美保 議員

問 7月26日午後2時ごろ発生した荒張ルモンタウンでの水道断水事故の概要と原因は。

答 加圧ポンプ施設の点検のため屋外消火栓を使用後、放水が止まらず、配水管の圧力が低下し、二帯で水圧が低下、濁水、断水が発生した。広報車等で周知し、給水車を配置。応急的止水措置と水道管洗浄作業を行い、午後7時通水を開始した。故障した消火栓は設置から27年が経過し、経年劣化による部品の破損が原因と考えられる。

問 水道事業はいくつかの課題があり、今後の水道事業の健全経営は大変厳しい状況であると思われる。有収水量減少の傾向を鑑み、施設のスペックダウン、ダウンサイジングの考えは。

答 現在施工中の第1高区配水池も新工事において貯留能力の最適化を行っている。適正な規模の更新工事を実施していく。

問 持続可能な水道事業運営に向けた取り組みについての考えは。

答 老朽化施設の更新、民間活力によるノウハウや支払方法の多様化、経営基盤の強化、漏水防止対策等を図り、安心でおいしい水の安定供給に取り組む。



▲金勝水源地

議会トピックス

知事に緊急要望

子どもの福祉医療費助成に関して緊急要望

8月28日に議長、副議長が滋賀県庁を訪問し、子どもの福祉医療費助成制度の拡大に関する知事あての緊急要望書を提出しました。

先般、滋賀県において新たな制度として「(仮称)高校生等福祉医療費助成制度」を令和6年度より県が事業費を全額負担する形で計画が示されました。本市においては中学生向けの医療費助成が未実施であり、この部分の取組みについて新たな課題が生じています。については本市において中学生まで医療費助成を拡大する上で、市町の子ども政策に対する支援策「(仮称)子ども・子育て施策推進交付金」が不可欠なことから、県により事業費の2分の1に相当する額を確保いただき、また恒久財源として制度化していただくよう、強い思いを伝えました。



委員会活動レポート

環境建設常任委員会

国道8号バイパスなどの現場を確認

国道1号・8号バイパスや接続する主要幹線道路の事業進捗を確認するため、8月1日に協議会を開催しました。

当日は、国道8号野洲栗東バイパス、栗東水口道路および大津能登川長浜線(山手幹線)について現場視察を行い、滋賀国道事務所と滋賀県南部土木事務所から、それぞれの「事業進捗状況」および「今後の事業計画等」について説明を受けました。

帰庁後、歩行者や自転車の通行ルートの確保や交差点の渋滞対策、通学路の安全対策などの質疑を行いました。



▲大津能登川長浜線(山手幹線)現場(上砥山地先)

議会改革特別委員会

議会基本条例の原点に立ち戻る研修を開催

8月21日に議員研修を開催し、青森大学社会学部の佐藤淳教授を講師に迎え「『議会基本条例』の原点に立ち戻ろう」をテーマに講義とグループワークを行いました。栗東市議会の「上手く出来ているところ」「伸びしろなところ」を書き出し、議会基本条例についての現状を評価し、課題についての意見交換を行いました。議員それぞれが議会改革として挑戦したい具体的な目標を設定、共有し共通意識を深め、市議会をより良くするための改革に取り組む決意を新たにしました。



▲グループワークで市議会の課題を意見交換

編集後記

秋と言えば食欲の秋!私は栗やさつまいも、柿など一年の中でも秋の味覚が大好きです。

さて、この議会だより編集作業中は議会の振り返りができると同時に、特集ページから今まで知らなかった栗東の魅力を知るなど、とても充実した時間となっています。今号から再開した特集ページは委員が輪番で取材し、内容をまとめています。議会を分かりやすくお伝えするとともに、私たち議員の人柄も垣間見える、そんな議会だよりを目指したいです。(谷口)

議会広報編集特別委員会

(委員長) 伊吹 裕 (副委員長) 谷口 律香

(委員) 里内 英幸 / 寺田 靖広 / 島田 利恵 / 奥村 明

●表紙写真

いちじくがおいしいジャムやピューレに